



令和2年12月22日 中部教育事務所

検証問題 10

英語の授業で、自分の学校の生徒の一人を紹介するという場面。以下の3つの条件を満たし、読み手に正しく伝わるように文と文のつながりなどに注意してまとまりよく書くことが求められている問題。

条件1

- 自分の学校の生徒の名前が書かれ、その人の具体的な説明がなされている。
(全国 56.1%)

条件2

- これからその生徒としてみたいことに言及している。
(全国 46%)

条件3

- テーマにそって、25語以上書かれている。
(全国35%)



各条件を理解し、読み手をクラスメイトと想定して、紹介する人物に関する事実を何にするのか（内容面）、その内容をどの既習事項を活用して書くのか（言語面）を、思考・判断して書く必要がある。

出来事や事実を描写したり言いたいことに最もふさわしい表現形式を考えたりして、内容的にまとまりのある文章を書くことが求められている。

H31全国学力・学習状況調査

課題の見られた問題の概要と結果

10 中部 1.7% (全国 1.8%)

2つのピクトグラムについてどちらの案がよいか自分の考えを書く問題。

【書くことオ】

文法事項を正しく用いて書くことや、2つの案に触れながら書くことに課題が見られた。

R元高知県学力定着状況調査

課題の見られた問題の概要と結果

10 (1) (2) (3)

中部 45.9% (全国 50.8%)

自分が住んでいるところにあるものについて、指示に従って書く問題。

【書くことオ】

文法事項を正しく用いて書くことや、まとまりのある文を書くことに課題が見られた。



授業改善のPoint I コミュニケーションを支える文法指導に取り組む

生徒が文法規則の説明を理解し、その規則を説明できたとしても、文法を十分に理解しているとは限らない。実際のコミュニケーションにおいて、その文法事項を正しく用いて表現できたときに、生きて働く知識を有していると言える。言語活動と効果的に関連付けて文法事項の必要性や有用性を実感させながら、理解や練習と実際の使用のサイクルを繰り返して指導することが大切である。

□文法の理解や練習のための活動を行う

- 生徒の文法に対する気付きを促すために、十分な量の英語を聞いたり読んだりさせる。
- 聞くこと、読むこと、書くこと、話すことの中で文法の知識を用いることができるよう繰り返し練習させる。

□実際のコミュニケーションの中で文法を用いる言語活動を行う

- コミュニケーションを行う目的・場面・状況を明確にする。
- ヒントの与えすぎは生徒の思考・判断・表現する力をそいでしまうことになるので使うべき言語材料を生徒自身に考えさせる。
- 生徒とやり取りを行う中で、一人一人の英語の発話に耳を傾け指導に活かす。



個別の知識を活用させて
言語活動を行う！

文法指導と言語活動は
両輪でまわす！



Good

混乱しながら間違い
ながら学んでいく！

「夏休みの予定を確認して、一緒に遊べる日を決める」って、どう聞けば確認できるのかな。Do you ~? Are you ...going to~? Will you ~? 何だろう・・・。



授業改善のPoint II まとまりのある文章を書かせる

「まとまりのある文章を書く」とは、文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書くことを示している。「導入一本論結論」や「主題根拠や具体主題の言い換えや要約」など、文章構成の特徴を意識しながら全体として一貫性のある文章を書くことができるようにすることが重要。

小学2年生 国語 「書くこと」

① 紹介する人を決める

- ・ 何かにくわしい人
- ・ 何かをするのが好きな人
- ・ 何かをするのが得意な人

② 紹介することを整理する

- ・ 料理が得意。
- ・ 毎日料理している。
- ☆ 紹介することがよく伝わるよう書く順を考える。

③ 紹介する文章を書く

- ☆ 言葉や文の続き方、伝えたいことのまとまりに気を付けて書く。

④ 文章を読み合う

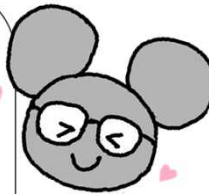
- ☆ わかりやすく書いていることや、よく伝わったことを伝え合う。
- ☆ 素敵だなと思ったこと、もつと知りたいことを伝え合う。

小学校低学年から「初めー中ー終わり」「序論一本論結論」の書き方を学んでいる。

国語科では低学年から読み手を意識し、つながりやまとまりに気を付けて文章を書いてきている。

書いた後のフィードバックが質の向上に欠かせないのも同じ。

他教科で鍛えた見方・考え方や学びを外国語と往還させて効果的に指導したい。



実際の使用場面を想定した言語活動において思考・判断・表現することを繰り返すことで、知識が活用され定着が図られていく。中間指導では内容面や言語面等について指導した後、再構築させ、生徒同士で読み合う場面を設定する。指導者の添削が入ったワークシートを受け取る頃には生徒の思考は途切れている。エディターシートなどを用いて読み合い、内容面、言語面で気付いたことを伝え合うことを通して、まとまりよく正確に書く力が少しずつ育成されていく。

関連資料

【国立教育政策研究所】

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書 p.49～

平成31年度（令和元年度）授業アイデア例 「情報を正しく伝える力を高めよう」
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料



【文部科学省】

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説英語編 p.26～p.28 p.66～p.69

新学習指導要領対応教材『Bridge』

文部科学省/mextchannel（YouTube）「外国語教育はこう変わる！」

【高知県】

Kochi Core-tan ～これだけは身につけよう2500語～

高知県中学校英語副読本 Discover Kochi

高知県4技能評価テスト集

